

2024（令和6）年度

東北大学法科大学院入学試験 一般選抜（前期）・法曹基礎課程特別選抜（開放型）

試験科目：民事法（民法）

【第1問】（解答は5行程度で行いなさい。）

Xは、画家Pの描いた絵画を購入したいと考え、知り合いのAに、Pの絵画を探して購入するよう依頼し、Pの絵画1点を100万円以下で購入することについて代理権を与えた。同じ頃、Aは、Yから、Yが所有するPの描いた絵画甲の売却を依頼され、甲を100万円以上で売却することについて代理権を与えられた。そこで、Aは、買主Xを代理するとともに、売主Yを代理して、甲を100万円で売買する旨の契約を締結した。代金の支払は、甲が実際に引き渡された日から3日以内に行うものと定められていた。

XがYに対して甲の引渡しを求めたとして、Yは、甲の引渡しを拒むことができるかについて論じなさい。

【第2問】（解答はあわせて15行程度で行いなさい。）

Xは、所有する動産甲をAに売却し、Aは、甲をYに転売した。甲は、XからAを経てYに引き渡されている。代金はXA間、AY間にいずれの売買についてもまだ支払われていない（XのAに対する代金債権を債権 α 、AのYに対する代金債権を債権 β と呼ぶ）。Xは、債権 α につき、債権 β をYから取り立てることで他の債権者に先立って優先的に弁済を受けたいと考え、債権 β の差押えを申し立てようとしている。

- (1) Xが優先弁済を主張する根拠としていかなるものが考えられるかを説明しなさい。
- (2) Aが債権 β をBに譲渡し、その旨を確定日付のある証書でYに通知した後であっても、Xが債権 β を差し押さえて、それから優先弁済を受けることができるかについて論じなさい。

【第3問】（解答は5行程度で行いなさい。）

民法550条にいう「書面」というために、その書面が贈与の両当事者（贈与者と受贈者）の間で作成されたものであり、贈与の意思表示自体がその書面で行われていることを必要とするかについて論じなさい。

【第4問】（解答は5行程度で行いなさい。）

①相続人の欠格、②推定相続人の廃除及び③相続の放棄は、いずれも相続人の資格を喪失させる効果をもつ制度である。それぞれがどのような制度であるかを、その相違点が明らかになるように留意しながら、簡潔に説明しなさい。解答の際には、各制度の名称を挙げずに、①、②、③と記して構わない。

以上